

県内のコンクリート製信号機、1/3が耐用年数越え!?

千田みつ子県議——更新計画の前倒し実施を求める



警察本部の佐々木交通部長は、「耐用年数が19年の信号制御機は、設置数1,880基のうち408基(21.7%)、耐用年数42年のコンクリート製信号機は設置数3,303本のうち1,086本(32.9%)となっている」「更新計画は、昨年3月に岩手県交通安全管理計画を策定しており、信号制御機は毎年70基、コンクリート製信号

日本共産党の千田美津子県議は、9月定例会議(9月28日から10月27日)の決算特別委員会、県民のいのち・くらしを守るため、各部署において質問に立ちました。このうち警察庁の調査で、老朽化し更新基準を超えた信号機が、全国で2割以上に上っていることを明らかにしたこと、警察本部に関わる質疑で、県内の状況と更新計画等について質しました。

更新計画の前倒し実施を求める

機は毎年20本の更新を計画している」と述べました。

千田県議は、「現在の更新計画により、制御機はあと5〜6年で更新されるが、コンクリート製信号機は、毎年20基のみの更新では、あと50年以上も掛かってしまうことから大変危険であり、更新計画を前倒しして対応すべきだ」と指摘しました。

適切な維持管理に努めたい

大濱警察本部長は、「老朽化を原因とする信号機の故障や倒壊などの発生が起きると交通の安全と円滑に大きく影響を及ぼす。こうした事を未然に防止する事は極めて重要な取り組みであると認識しており、県警察としては、岩手県交通安全施設管理計画に基づき適切な維持管理

民報
おうしゅう
読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢字久田62
Tel 24-2021
Fax 24-2049

に努めていきたい」と述べるに止まりました。

奥州金ヶ崎行政事務組合

「定員管理計画」を質す

10月30日、奥州金ヶ崎行政事務組合の議会定例会が開かれ、日本共産党の瀨川貞清議員が一般質問に立ちました。瀨川議員は、9月25日に発表された「定員管理計画(案)」に関わって管理者の見解を質しました。

ボイラー・タービン主任技術者養成について

瀨川貞清議員は、この問題について、「2019年11月の定例会で、『現在いる職員にボイラー・タービン主任技術者資格を取得させるか、あるいは資格のある者を新たに採用する必要がある』と答弁しているが、ええされている」と指摘。「進展が見えない」として見直しについて小沢管理者の見解を質しました。

令和4年度取得をめざす

小沢昌記管理者は「組合の資格育成については、現在職員一名をボイラー・タービン主任技術者の職務代理者として実務経験を積ませており、令和4年度中に資格取得を目指している」と答えました。



日本共産党
ふなやま由美

女川原発再稼働させない

【19日行動の日・たくさんの出会い】

石巻市へ登米市の6箇所を伝カークから女川原発再稼働ストップを訴えました。

「原発再稼働を勝手に決めないで！」

「女川原発は廃炉にしてほしい。福島原発事故を忘れたのか」

と石巻市雄勝で被災した方から怒りの声が寄せられました。

栄養ドリンクの差し入れや復興住宅から手を降っての声援も

11月3日

多数あり、うれしくなりました。登米市では工藤じゅんこ市議と一緒に。将来に渡って安心の未来を子どもたちに手渡すために、力あわせよう!!と訴えよみました。



(写真はホームページより)

「定員管理計画」の見直しを求める

瀨川貞清議員は、会計管理者を企画総務課長が兼任する問題で、「こういう体制で業務がスムーズに遂行されるのか、職員の過重労働につながるのではないか」消防の査察業務が時間外勤務を前提に行われている問題で、「勤務時間外の査察業務の改善に結びつくのか」と質し、「定員管理計画」は現員を上限として組み立てられており、やりくり



議員
瀨川貞清
計画」は現員を上限として組み立てられており、やりくり

の計画である。見直すべきではないか」と質しました。

経緯を見ながら検証したい

会計管理者について、北條事務局次長は、「現在、水質管理課長が兼任しており、し尿施設整備等の業務が増えることから企画総務課長兼務とした」とし、平消防次長は、査察業務について「職員に対してそれほど負荷をかけているとは認識していない」と答弁しました。千田事務局長は「全体を検討した結果、今回は定員の見直しには至らなかったもの。経緯を見ながら、適宜、検証していきたい」と答えました。